

## ■ 製品安全チェック

	チェック内容	回答
製品を買う前に	周囲の口コミや雑誌、インターネットなどで製品の安全性に関する情報を集めている	YES NO
製品を買うときに	機能や価格と同時に、安全性についても考えたうえで選んでいる	YES NO
使い始める前に	取扱説明書をよく読んでから使い始めている	YES NO
使い始めてから	定期的に掃除やメンテナンスを行なながら使っている	YES NO
不具合を発見したときに	すぐに使うのを止めて、メーカーや消費生活センターなどに連絡・相談している	YES NO

## ■ 製品安全情報をさらに調べてみよう

各機関名	WEB アドレス
経済産業省「製品安全ガイド」	<a href="http://www.meti.go.jp/product_safety/">http://www.meti.go.jp/product_safety/</a>
消費者庁	<a href="http://www.caa.go.jp/index.html">http://www.caa.go.jp/index.html</a>
(独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)	<a href="http://www.nite.go.jp/">http://www.nite.go.jp/</a>
(独) 国民生活センター	<a href="http://www.kokusen.go.jp/">http://www.kokusen.go.jp/</a>
(独) 国民生活センター「全国の消費生活センター等」	<a href="http://www.kokusen.go.jp/map/index.html">http://www.kokusen.go.jp/map/index.html</a>



製品安全ガイドホームページ  
[www.meti.go.jp/product\\_safety/](http://www.meti.go.jp/product_safety/)

詳しい情報は  
インターネットで!

製品安全ガイド 検索

# 製品安全の知識

製品を正しく使い、事故から身を守ろう



# 身の回りにひそむ さまざまな製品事故

イラストの中にはさまざまな危険がひそんでいます。製品事故が起こりそうな場面を考えてみましょう。



# 身の回りにひそむ さまざまな製品事故

## 飲み物が突然ふき出してやけど

電子レンジで飲み物などを温めるときは、適切な設定時間で加熱しましょう



## 天ぷらなべの油から出火

調理中は目を離さないようにしましょう  
その場を離れるときはスイッチを必ず切りましょう

## 洗濯物が落下して火災

ストーブの上や近くで洗濯物を干さない  
ようにしましょう



## 長期間の使用によって 部品が劣化して発火

音やにおいなど製品の異常を感じたら使用を止めて、メーカーなどに相談しましょう

## ほこりのたまつ 電源プラグから出火

定期的にプラグを抜き、  
乾いた布でほこりを取り除くなどしましょう

## ふろがまの 空だきで火災

浴槽に水が入っているか  
を必ず確認してから点火  
しましょう

## 洗濯物が指にからまりケガ

洗濯機の回転が止まるまでは、絶対に中の洗濯物に触れないようにしましょう

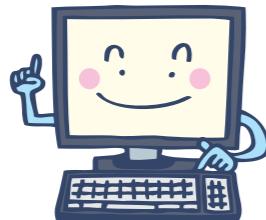
# 製品を安全に正しく使うために

## 買うとき

製品を買うときは機能や価格だけでなく、安全性も意識して製品を選びましょう。

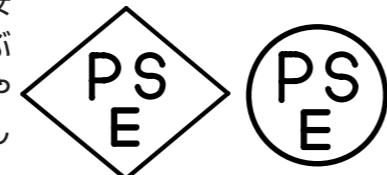
### ポイント 情報を収集しよう

製品を買うときは、製品の特徴や価格のほかに、安全性やアフターサービスなどに関する情報を集めることが大切です。インターネット、広告・雑誌の情報や販売店での説明を参考にしましょう。



### ポイント 表示・マークを確認しよう

製品の安全性を確認するうえで、一定の安全基準などを満たしている製品にはマークが表示されます。安全な製品を選ぶためにも表示やマークを確認しましょう。



※マークの一例

## 使うとき

製品自体が原因で発生する事故だけでなく、使用者の誤った使い方や不注意によって起きる事故も多くあります。製品は安全に正しく使いましょう。また、異常を感じたときには、すぐに使うのを止めましょう。

### ポイント 取扱説明書をよく読もう

取扱説明書には製品の正しい使い方や点検の仕方、故障の見分け方など重要なことが書かれています。取扱説明書をよく読んで製品を安全に正しく使いましょう。



### ポイント 定期的に点検・掃除をしよう

長期間使用していると、部品などの劣化により事故が発生する場合があります。製品を安全に使うため日ごろから点検や掃除をしておきましょう。



### ポイント 異常を感じたら、使うのを止めよう

製品を使っているときはいつもと違うことがないか気をつけましょう。もし音・振動・においなど「いつもと違う」「何か変だ」と思ったら、すぐに使うのを止めてメーカー・販売店や消費生活センターなどの相談窓口に相談しましょう。

### ポイント 事故情報やリコール情報に注意しよう

日ごろから、ニュースや新聞で伝えられる製品事故の情報やリコール※情報に気をつけましょう。また、対象の製品を使っていた場合には必ず問い合わせ先に連絡をしましょう。

※リコール=製品に欠陥があるとき、生産者が情報を公表して製品を回収・修理すること

# 製品の不具合を発見したとき、あなたは!?



### 1 気にせずに使い続ける

X そのまま使い続けると、事故につながる危険性があります

### 2 放置する

X そのまま放置したり、しまっておいたらすると家族が知らずに使って事故につながる危険性があります

### 3 捨てる

△ 不具合に気づいていない別の方が事故にあってしまう危険性があります

### 4 インターネットのサイトに書き込む

△ インターネットのサイトなどに書き込むだけでは、メーカーなどに伝わらないことがあります

### 5 メーカーに連絡する

○ 製品の不具合に気づいたら、メーカーなどの相談窓口に連絡しましょう

### 6 国民生活センター・消費生活センターに連絡する

○ 製品の不具合に気づいたら、国民生活センター・消費生活センターに相談しましょう

## 製品に関わる人たち

製品による事故は、行政やメーカー・販売店だけでなく、消費者のみなさまを含めたその製品に関わるすべての人が、それぞれの立場で積極的に働きかけていくことで、防ぐことができます。



### 消費者のみなさまへのお願い

#### 1 事故から身を守るために製品を安全に正しく使いましょう

#### 2 事故が起きたときには、その状況をメーカー・販売店や消費生活センターなどに伝えましょう

#### 3 その後の対応を確認するなど関心を持ち続けましょう